

授業改善書

科目名	心理学研究法(心理学研究法Ⅰ)
担当者	藤原 健志

授業の概要

本授業の目標は、①人間の心・行動を考察し、問題を解決していくうえで必要となる、科学的思考と研究方法について理解するとともに、②「何を、どのように研究するのか」を知ることによって、人間の心・行動についての理解を深めることの2点を目標とし、心理学における基本的な研究方法論と研究実施上の留意点についての基本的事項について講義が行われた。

授業の問題点

後述の通り、全体的に満足度ならびに授業内容や授業方法に対する問い全般において4.50前後を推移し、高い満足度を提供していると考えられる。特に本科目は、心理学科開講科目の中でも難易度や抽象度が高い科目と思われるが、その中でも受講生からおおむね高い評価を得たと考えられる。また、授業外学習への取り組みについては、今年度(3.70)、昨年度(3.06)や一昨年度(2.38)に比べ大幅な改善が認められた。受講生が授業外においても意欲的に取り組んでいることがうかがえる。

学生の授業満足度

授業に対する全体的な満足度(「全体的に振り返って、授業に満足できましたか」という設問に対する回答)は、5点満点中4.57と、昨年度の4.51と同水準のおおむね十分な得点の高さとなった。その他、授業内容や授業方法に関する問い全般においても、昨年度同様4.50程度で推移しており、受講生から高い評価を得ていると考えられる。

授業改善の課題と方策

上記課題のうち、授業外学習については適宜参考文献等を紹介し、メディアセンター蔵図書などの学習資源に関する情報提供や同時期に開講されている他科目(「心理学実験基礎」や「心理学統計法Ⅰ」)との関連の周知等を通じて、授業内容と授業外学習をつなげる促しを行ってきた。これまでの改善が結実する形で、この得点が大きく上昇を続けており、この取り組みを来年度以降も継続する。

受講生より高評価を得た多くの項目については、教育内容と授業方法について研究を重ね、来年度以降も同様の評価を得られるよう努力する。

その他

今年度より調査方法がWebへ変更されたため、昨年度以前の結果との比較については留意する必要がある。